

## こども教育宝仙大学 研究室だより 第7回

### 「ドラマのレッスン（舞台作りを目的にしない演劇的なレッスン）で生きる力を」

文化祭や大会に向けて中学生たちと劇を創っていたら、クラスみんなが仲良くなったり、不登校だった生徒が学校に毎日来られるようになったりということがよくありました。

これは私だけの経験ではありません。かつて教育現場にいた私は、小中学校の先生方から同様の話をしばしばお聞きしました。

—なぜこのようなことが起きるのだろうか—

この疑問が、私が演劇について学びたい、研究したいと思ったきっかけです。

実際にたくさんのレッスンを受けたり、舞台上に立ったり、こどもたちと劇を創ったりしていく中で見えてきたものがありました。それは、人として大切なことを演劇の中でたくさん学んでいる、ということです。

きちんと人と向き合うこと、相手の話を聞くこと、言葉を届かせること、他者を尊重すること、自尊感情を持つこと等々。これらは劇を創る途中の過程で学ぶことが出来るので、舞台作りを目的にしないレッスンにおいても可能です。

外国では、学校の授業の科目に演劇があったり、刑務所の更生プログラムに演劇を取り入れていたり、ストリートチルドレンと劇作りをしたりと、「演劇の力」を信じた取り組みが実にたくさんあります。

学校では「正解」が求められ、「能力」が評価されがちですが、演劇は「あなたの存在そのものが素敵」と受け止めます。人が幸せに生きる力をつけるレッスンの開発が、私のテーマです。

（照屋洋 研究分野：身体表現・こころとからだ・演劇）

